

山梨県における甲状腺超音波検査および 潜在甲状腺がんに関する報告

志村浩己

福島県立医科大学臨床検査医学講座

放射線医学県民健康管理センター・甲状腺検査部門

近年、甲状腺超音波検査を成人に対し行うと、非常に高頻度に甲状腺結節が見つかることが知られている。山梨県では、数十年にわたって、疾病の早期発見と予防を目的とした総合的健康診断である人間ドックの成人受診者に対し、甲状腺超音波検査を実施してきた。過去10年間以内の結果を解析した結果、超音波検査による甲状腺結節 (≥ 3.0 mm)、甲状腺嚢胞 (≥ 3.0 mm) および慢性甲状腺疾患の検出率は、それぞれ22.8%、27.6%、11.2%となっており、これらの検出率は受診者の年齢上昇に比例して増加していた。また、1年間あたりの結節径の変化を検討した所、5.0 mm以下の結節では1.1mm/year増大したものは3%に過ぎなかったが、10.1mm以上の結節では、その25%が1.1 mm/yearの増大が認められた。この対象者において計57例(0.26%)の甲状腺癌が発見され、年間結節径変化は、良性結節が 0.22 ± 0.28 mm/yearであったのに対し、甲状腺癌で経過観察し得た例では 1.33 ± 0.72 mm/yearと有意に増大速度が高かった。

これまでの報告は甲状腺結節や甲状腺癌の罹病率は触診、超音波、死亡時剖検など検査方法によって全く異なっていることを示している。今回の発表では、過去になされた報告のメタ分析結果も紹介する。甲状腺は、剖検における検討によると、検出率10%から30%と極めて高い確率で甲状腺潜在癌が発生する臓器であるため、甲状腺疾患に対する方針決定においては、この点に関し注意深く考慮することが必要である。